

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2774002352
法人名	特定非営利活動法人 いきいきライフ協会
事業所名	グループホームいきいき東豊中
訪問調査日	平成 19 年 8 月 20 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2774002352		
法人名	特定非営利活動法人 いきいきライフ協会		
事業所名	グループホームいきいき東豊中		
所在地	大阪府豊中市熊野町3丁目3番47号 (電話) 06-6848-0771		
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査セン		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年8月20日	評価確定日	平成19年9月20日

【情報の提供票より】(19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	11人, 非常勤 7人, 常勤換算 6・5

(2) 建物概要

建物構造	2 階建 木造 造り		
	2 階建て	1 階	~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	他の経費(月額)	63,000 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 5年間
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東豊中渡辺病院 鳥居歯科 栗田整形外科医院 竹内歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは事業主体の特定非営利活動法人「いきいきライフ協会」が高齢者に対して豊かで安心できる生活環境を提供する高齢者のための福祉の必要性を目的に平成16年6月1日に開設された。周りは静かな住宅街で近くに歴史ある神社があり毎日の散歩が楽しみ、すぐ側には地元中学校もあり校庭から聞こえる吹奏楽の奏でる曲に入居者の気持ちは癒され落ち着いた暮らしをしている。ホームの建物は各居室ともゆったりとした十分なスペースが取られた2ユニットの構造である。利用者は毎日の食事作りは各ユニットと交流を持ちながら自分達で食事づくり等をして家事にも意欲的に参加している。職員は入居者の方から教えられる喜びを支援の中に活かす様に努めている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は2ユニットの介護計画書の様式統一と家族への介護計画書を送付した確認と栄養バランスの改善指導、研修の充実の4つであったが前記3つは改善の取り組みが行われていた。研修の充実は内部研修の実施に取り組みされているが外部研修の参加者は限られており研修内容を職員ミーティングなどで報告するように期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各ユニットの責任者が記入した。外部評価の結果は職員や推進委員会などで開示していろいろな意見を聞き 今後のサービス改善課題に向け検討するようにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	これまでに2回の運営推進会議を実施した。初回はホームの概要や活動状況などの報告、2回目は外部評価の結果を報告し、ホームの運営、現状等の内容が報告された。参加者は市職員、包括センター、自治会長、民生委員、家族会、職員である。運営推進会議で要望、アドバイス等を聞く事により、その後は地域活動や行事に参加しやすくなり地域交流に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、ホームでの日々の生活記録、金銭管理の内容などをホーム便りと一緒に家族へ報告している。二ヶ月に一回行われる家族会は活発で色々な意見や要望はその後のサービスに反映させるように配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年間行事の他に地域のボランティアによる話し相手、踊り、歌体操、手品などの鑑賞を入居者は楽しんでいる。ホーム近くの神社のお祭り、地元中学校の行事にも参加し地域との交流に前向きに取り組んでいる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が「陽気に元気でいきいきといい顔で過ごせるように」を常に考えたサービス提供を理念とし、利用者がどのような状態になっても後々までも思いをよせ相談にのってあげられるよう笑顔を忘れない対応を心がけて質の高い介護を提供している。	○	平成18年の制度改正による地域密着型サービスの意義と役割を全職員で考えて、これまでの理念を見直し、共に暮らす地域で必要とされる活動や役割等、地域との関係性強化を目指した事業所独自の理念を作りあげる取り組みを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々のミーティングや研修会で理念を共に話し合い確認し合って利用者が安心して過ごせるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの神社のお祭りやすぐ側の地元中学校の吹奏楽の鑑賞会等に参加したり 中学生のボランティアを受け入れている。グループホーム建物すぐ階下の喫茶店に来るお客さんから介護の相談を受けることもある。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員はサービス評価の意義や目的を理解している。運営者・管理者は週一回の会議をもち 管理者と職員は月一回の会議と見直しの会議を行い前年度の外部評価の結果を踏まえ改善事項に取り組み実行している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこれまでに2回、市職員、包括センター、民生委員、自治会、家族会の協力を得て開催された。初回はグループホームの概要と活動状況を説明し、二回目は自己評価、外部評価を開示して出席者各々からの立場からのアドバイスを受け運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護福祉課や包括支援センターへ事業所の考え方や実情を折りに触れ伝え事業所の実態を知ってもらうように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の日常生活の状況 健康状態 金銭管理等をまとめた個人生活記録、職員の異動等を報告している。訪問のない家族にはホーム便りと一緒に同封して定期的に発送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に家族からの要望や本音を聞くように積極的に努めている。2ヶ月に1回の家族会議があり、その折に不満や要望等を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は家族会等で報告している。管理者は職員の不満や悩みなど聞き職員が働きやすい魅力ある職場作りに努力している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成を特に大切と考えて限られた職員体制の中で内部研修を計画を立て良く実施している。	○	職員個々の経験や習熟度に応じた段階的研修を内外の研修で積極的に取組まれることを期待したい。外部研修の参加者が少ないように感じられるので外部研修に参加した職員は研修内容をまとめて職員ミーティングの時などに報告し研修情報を共有される事を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一度の訪問相談で利用者の声を聞いて頂いたり職員の質の向上を含めた指導を受けている。市の連絡会や同業者同士のネットワークの繋がりを望んでいるがまだ実現していない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所はないが予め入所前に詳しい情報を収集し家族との連携を密にしながらホームの雰囲気徐々に馴染めるように工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活の中で利用者は人生の先輩であるという考えで接している。職員は日々教えられることが多々有り感謝と喜びを感じている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が安心してその人らしく暮せるように職員による観察やカンファレンスを重ね一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。センター方式を導入するための勉強会を行っている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書を作成する時は本人、家族、関係者とよく話し合っけて気付き、意見、要望を反映した介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の関係者と話し合い利用者の状況を把握し状況変化を見ながら現状に即した介護計画書の見直しを行い、カンファレンス等を実施し新鮮な目で見直す取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が安心して暮せるように本人や家族の要望に応じて外出支援、移送支援、行事などその時々に必要な支援を柔軟に提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院は24時間対応である。メンタルクリニックケアの体制や訪問歯科の導入なども実施して利用者や家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に終末期直前まで対応した例があり職員も出来るところまでは対応したい気持ちはある。しかし重度化した場合や終末期について具体的な話し合いや文書化までには至っていない。今後とも繰り返し話し合っていくことが求められる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の意思や人格を大切に言葉の内容や語調等が利用者の誇りを傷つけないように丁寧な対応を心がけている。利用者の記録など秘密保持の徹底も図られている、		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で利用者の顔を見ながらその人らしいペースを尊重して柔軟に支援するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材購入は利用者の希望を取り入れながら栄養士の職員が栄養バランスを考えながら献立を作成している。食事づくりから後片付けまでは職員と利用者が一緒に楽しんで行っている。食後の利用者の表情は満足した穏やかな表情である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴予定は決められているがもっと入浴したい希望者には時間帯や入浴順番など本人の希望に応じた取り組みがなされ 清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ることを見出しながら暮らしの中でその人にあった役割や楽しみごとが出来るように支援している。利用者は家事への参加に積極的に職員も利用者の出番作りに工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は近くの神社、スーパー、すぐ側の中学校の校庭、喫茶店等へ出来るだけ行くようにしているが季節に合わせて調節しながら行くようにしている。校庭の中学生から声をかけてもらう歩は楽しみの一つでもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵が掛かっていなければ危険であるという意識が強く玄関、各ユニットごとに施錠されている。安全性を配慮して日中鍵を掛けないで支援していく努力と意識や姿勢が求められる。	○	鍵をかけられ自由に外へ出れない利用者の立場に立って安全を確保しながら短い時間帯でも鍵をかけないで過ごせる工夫を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の住民へも声かけして月1回の避難訓練を実施している。今後は災害に備えた物品などの準備しておくことが望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった利用者の食べる力に応じ食事の内容を工夫している。1日全体を通じた食事量、栄養バランス、水分摂取量のチェックも行っている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間(食堂、廊下、居間、台所浴室、トイレ等)はゆったりとしたスペースが確保されて廊下には一人になれるようなソファが置いてあり居場所が確保されている。不快な音や光がないように配慮され安心感のある雰囲気を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や家具、仏壇など持ち込まれてその人らしく心地よい居室作りに工夫されている。		